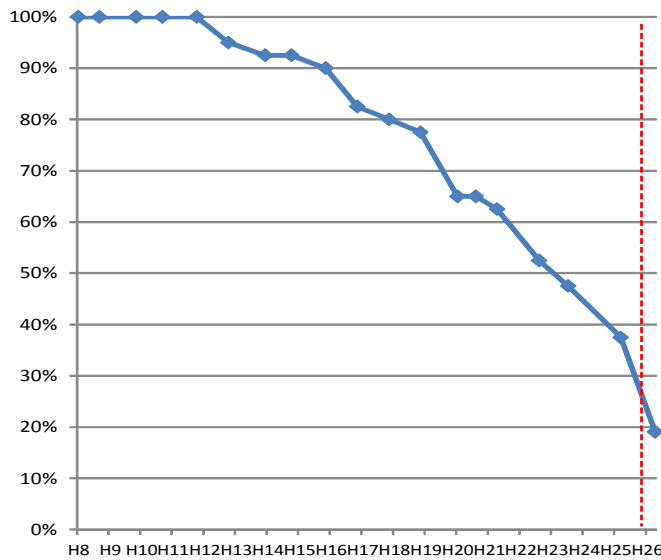


樹種名	センダン	
科 目	センダン科	
学 名	<i>Melia azedarach</i> var. <i>subtripinnata</i>	
分 布	四国、九州、沖縄に分布し、温暖な地域の、海岸近くや森林辺縁に多く自生する。	
樹木特性	陽樹であり、街路樹や公園などによく植えられている。樹高は 5~15m 程度となり初夏に淡紫色の花が咲き、観賞用として栽培されている。 果実は薬用に使用され、核は数珠の玉に使われている。	
用 途	公園樹、街路樹、建築・家具・器具・楽器・下駄材として利用。 樹皮は漢方で条虫・回虫の駆除剤。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	451 本 / 0.17ha (2600 本 / ha)	
特 徴	<p>【樹形】 センダンは、センダン科センダン属の落葉高木。別名としてオウチ(棟)、アミノキなどがある。「柎檀は双葉より芳(かんば)し」のことわざでよく知られるが、これはセンダンではなくビャクダン(白檀)を指す。樹高は 5~15 m ほどで、成長が早い。若い樹皮は紫褐色で楕円形の小さな横斑が点在するが、太い幹の樹皮は縦に裂け、顕著な凹凸ができる。夏の日の午後は梢にクマゼミが多数止まり、樹液を吸う様子が見られる。葉は奇数 2~3 回羽状複葉で互生し、一枚の葉全体の長さは 50cm 以上ある。小葉は草質で薄い。楕円形で浅い鋸歯がある。</p> <p>開花は 5 月から 6 月に咲き、花弁は薄紫色、果実は楕円形で長さ 1.5~2cm 程度で黄色に熟す。シロアリに対する抵抗力が強く家具・彫刻材などに適している。</p>	  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、病虫獣害の被害は特に見られなかったが、現存率は 19 % と低い結果であった。	
被 害	特になし。	

センダン 現存率



【現存率】

植栽後、4年を経過した頃より、原因不明の枯死が発生している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、現存率は19.1%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

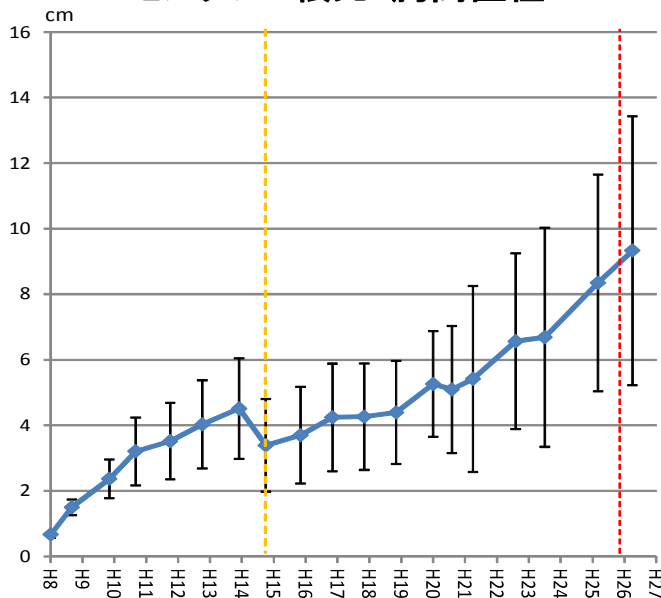
現存木は順調に成長している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は9.33cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

センダン 根元・胸高直径



【樹高】

順調に成長している。

平成26年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は6.88mであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

センダン 樹高

